



安全に抗がん薬治療を進めていくために

患者さんやご家族の身体を守るためのポイント

監修：NHO四国がんセンター / 臨床研究推進部 青儀健二郎

編著：聖路加国際病院 / 薬剤部 石丸博雅

著者：NHO九州がんセンター / 臨床研究センター 衛藤智章

NHO北海道がんセンター / 看護部 高橋由美

イラスト：西岡本薬局 / 薬剤師 櫻井秀也

第1版_202107

第2版_202206



目次

はじめに	01
1. 抗がん薬ばく露とはどういう意味ですか？	02
2. 抗がん薬にばく露したらすぐに大変なことが起こるのですか？	03
3. 日常生活で出来る対策について相談しましょう	04~08
①トイレを使う時に注意すること	05
②日常生活上の疑問	06
③洗濯物の取り扱い	07
④こぼれた場合など、掃除をする時の工夫	08
おわりに	09
付録	10~11



はじめに

がん薬物療法の歴史は1940年代にさかのぼり、今では多くの薬剤が開発され、手術療法、放射線療法と共にごがん治療には欠かせないものになっています。抗がん薬の副作用は患者さんや患者さんを支えるご家族にとって大変つらいものですが、今では支持療法といわれる副作用への対策も進化しています。

また一方で、1970年代より、抗がん薬の発がん性・妊娠などの健康への影響について研究され始め、抗がん薬は取り扱う際には十分な注意が必要であるとして様々な安全対策が取られるようになってきました。

この冊子では、**患者さんやご家族の皆さんが抗がん薬に関わる時に、適切な対策について正しく理解し、適切な安全対策を実践して頂くための説明をしています。**簡単な対策ですので、これらの予防策をしていれば安心です。日常生活の中でぜひ行ってみてください。

患者さんの治療生活をご家族の皆さんが支えていきながら、安心して過ごして頂けるよう、この冊子がお役に立てれば幸いです。

青儀 健二郎

1. 抗がん薬ばく露とは どういう意味ですか？

「抗がん薬ばく露」とは、患者さん以外の方の身体に抗がん薬が入ってしまうことを言います。

抗がん薬ばく露を起こす場面は、次のようなケースがあります。

- 抗がん薬の粉や蒸気を吸い込む
- 抗がん薬が付着した手で食べ物を食べる
- 抗がん薬が皮膚に付いたままにする

また、抗がん薬が付いた手で家の色々な所を触ると、それらに抗がん薬が付着し、家族の方がその場所を触ることで抗がん薬ばく露が発生してしまいます。

抗がん薬のばく露は、患者さんの治療で身体に入る抗がん薬の量と比べて何百万分の1ともいえるくらい微量です。しかし、健康に影響を及ぼす可能性があるため、微量でも取り込まない対策が必要です



2. 抗がん薬にばく露したらすぐに 大変なことが起こるのですか？

抗がん薬にばく露することは「健康への影響を及ぼすきっかけを増やす」ことになりますが、抗がん薬にばく露したからといって必ず「がん」など健康に影響がでるわけではありません。

健康な人の身体に抗がん薬が吸収され抗がん薬ばく露が起こると、例えば次のような症状が発生する可能性があると考えられています。

- 発がん性のリスクが上昇
- 嘔吐や吐き気などの消化器症状
- 流産
- 赤ちゃんに奇形が発生する

「抗がん薬ばく露は怖い!!」と考えすぎて、過度な対策を取られる方がおられますが、きちんと対策ができれば**過剰に恐れる必要はありません**。

抗がん薬のばく露対策のポイントは
「しっかり対策を行い、リスクを最小限に抑える」ことです。

患者さん自身が危険な存在であるなどと感じないでください。**患者さんの病気を治療するために抗がん薬は必要なので、次のページからの対策をとる事で防ぐことが可能です。**



3. 日常生活で出来る対策について 相談しましょう

注射・点滴治療の方は投与後約2日間、内服薬治療の方は治療期間中はこれからご説明する対策について、**日常生活のなかで実践できる工夫を一緒に考えましょう。**
困ったときには、病院のスタッフに相談するようにしましょう。



ばく露対策のポイント

- 点滴や内服薬、排泄物などを**こぼさない工夫**をしましょう。
- 点滴や内服薬、排泄物などがこぼれたら、
可能であれば患者さん自身が**速やかに拭き取り**ましょう。
- 患者さん以外の方が抗がん薬を取り扱ったり、
掃除をする時は、手袋、ガウンまたはエプロンなどを着けて、
直接皮膚や衣服に付着することを防ぎましょう。
- 手洗いは、石けんと流水で行いましょう。

①トイレを使う時に注意すること

- 男性も座って用を足すようにしましょう。
- 水を流すときは、便器のフタをして流しましょう。
- トイレの流れが弱い場合は2回流しましょう。
- 床や、便座の裏、便器のフチなどに飛び散りが生じた場合は、可能な限り患者さん自身がその場でふき取っておきましょう。
- できるだけ毎日掃除をしましょう。

トイレ掃除のポイント

- 使い捨ての掃除用具(トイレに流せるシートなど)を使用する。
- 患者さん以外の方が掃除をする場合は使い捨ての手袋と、ガウンまたはエプロンなどをつける。
- 掃除後は石けんと流水で充分に手洗いを行う。



②日常生活上の疑問

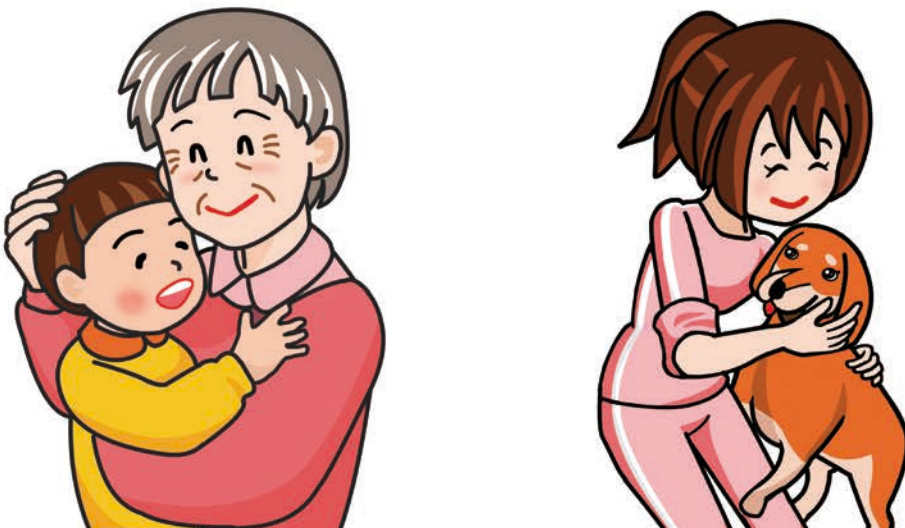
抗がん薬治療中や、投与後約2日間は汗や唾液などにも抗がん薬成分が含まれると言われています。しかし、その量は極微量です。

乳幼児、妊婦、授乳中などのご家族とのかかわり方を心配される方がありますが、スキンシップを控えるなどの過度の対策は不要です。

この冊子で説明している対策を実践して頂くことに加えて、いくつかヒントをお示します。

日常生活上のポイント

- 乳幼児を抱く、お子さんと触れあう場合などに特別な対応は必要ありません。多量の汗で衣服が濡れている場合は着替れば問題ありません。
- ペットとの触れあいに問題ありません。
感染防止の目的も含め口移しで食べ物を与えたりは、しないようにしましょう。
- 性行為は抗がん薬治療中や投与後約2日間は避けましょう。
コンドームを使用するといつでも可能です。
- 湯ぶねを別にする必要はありません。気になる場合は、シャワーで洗い流してから湯ぶねに入る、または最後に入浴するなどの工夫でよいです。
- 食事は普段通りでよいです。食器を分けたりする必要はありません。



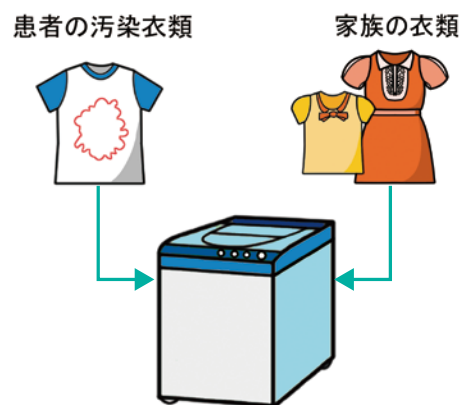
③洗濯物の取り扱い

注射・点滴治療の方は投与後約2日間、内服薬治療の方は治療期間中は尿や便から抗がん薬が排泄されます。

多量の汗や吐物などにも極微量ながらその成分が含まれることがあるので注意が必要です。しかし、**明らかな汚染のないものは普段通りご家族のものと一緒に普通に洗濯して大丈夫です。**

多量の汗で衣類がしっとり濡れた場合や排泄物などで明らかに汚れている場合には、以下の取り扱いをしてください。

明らかな汚染のない場合



汚染のある衣類を洗濯する時のポイント

以下の2Stepで洗濯します

STEP1 汚染のある衣類のみを洗濯機で洗濯

STEP2 家族の衣類と一緒にしてもよいので、もう一度洗濯機で洗濯

明らかな汚染がある場合

患者の汚染衣類



STEP1

1回洗濯した
患者の衣類



家族の衣類



STEP2

④こぼれた場合など、掃除をする時の工夫

抗がん薬がこぼれてしまった場合や、尿や便、吐物などで汚れた場合は、素手で触らないようにしましょう。

着衣に汚染が付着しないよう注意し、下記の方法で清掃しましょう。

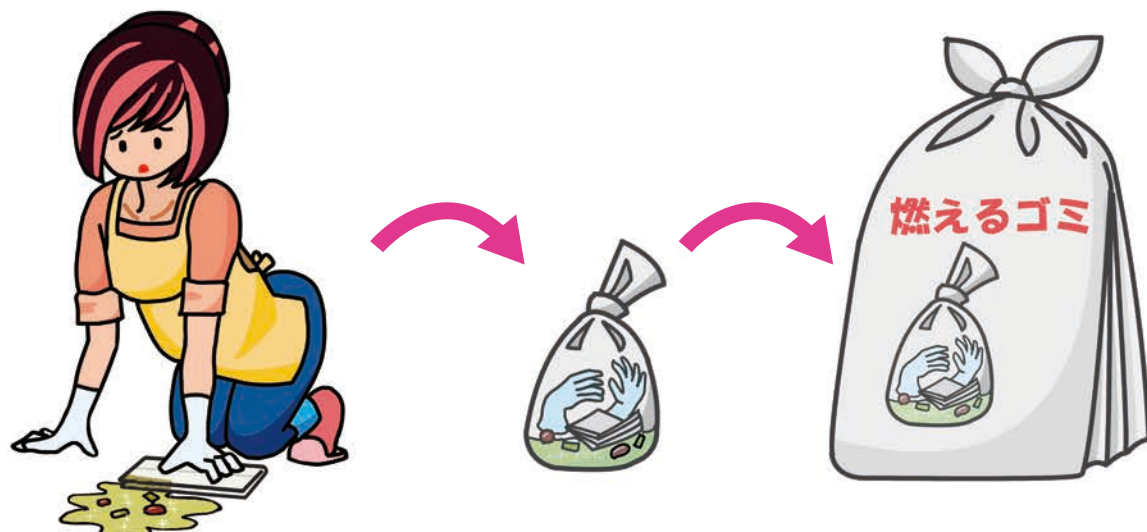
掃除をする時のポイント

準備するもの

- 使い捨てビニール手袋、撥水素材のエプロン又はガウンなど
- 使い捨てペーパータオルなど（使い回しの雑巾は使用しない）
- 掃除用中性洗剤（消毒用アルコールは洗剤として使用しない）
- ゴミ袋

清掃手順

- ① 使い捨てのビニール手袋を着用する。
- ② 撥水素材のエプロンやガウンを着用する。
- ③ 汚染個所をペーパータオルなどでよくふき取る。
- ④ 掃除用の中性洗剤でふき取る。
- ⑤ 十分に水拭きする。
- ⑥ 使用したペーパータオルや手袋などはビニール袋に密封して燃えるゴミに廃棄する。
- ⑦ 石けんと流水で十分に手洗いをする。



おわりに

患者さんにとって抗がん薬治療は必要不可欠なものである反面、患者さんの身近な人にとってはごく少量でも身体に取り込む必要がないものです。

抗がん薬に対して「怖いもの」という印象をお持ちになるのではなく、ご家族にとっては「不必要なもの」と考えていただき、適切な安全対策を取りながら、安心して治療を続けていただきたいと思います。

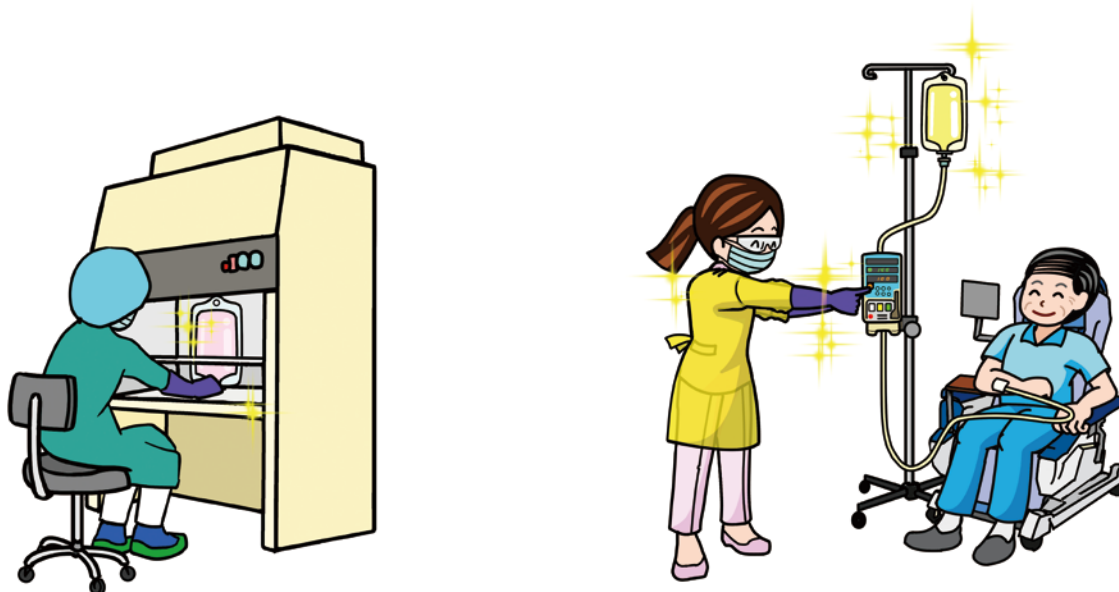
抗がん薬での治療が、患者さんやご家族にとって幸せな結果につながることをお祈り申し上げます。



付録①：病院の中で行われているばく露対策

医療スタッフが患者さんへ投与する抗がん薬を準備するときに、やむを得ず、目に見えない微粒子として周囲に飛散してしまうことがあります。

そうすると、極めて微量ですが、抗がん薬が付着した器具などを介して患者さんやご家族が触れてしまう可能性があります。



そのため、病院内で抗がん薬を取り扱う看護師や薬剤師は、手袋、ガウン、マスク、ゴーグルなどを着用することで、周囲への飛散を防ぐように努めています。

この時、スタッフの服装に戸惑う方もおられるかもしれませんがご理解ください。

近年では、注射抗がん薬を準備する際に、閉鎖式器具という専用器具を用いる施設が増えてきました。この専用器具は、準備中に発生してしまう抗がん薬の飛散や揮発を防ぐことができるため、医療者だけでなく、患者さんやご家族へのばく露リスクを大幅に減らすことで、からだを守ることができると言われています。

付録②：ばく露対策の動向

抗がん薬などの健康に影響を与える可能性のある薬剤のことを世界的にはハザードス・ドラッグと呼ばれ、労働安全の観点から安全な取り扱いが50年くらい前から推奨されてきました。

アメリカには米国薬局方という法律があります。その法律のなかで、ハザードス・ドラッグのばく露対策に関するものもまとめられており、2019年12月より施行されました。この法律では、ハザードス・ドラッグの漏出を防ぐための特別な器具を使用するなど、ハザードス・ドラッグを安全に取り扱うことが要求されています。また、アメリカのがん看護協会のハザードス・ドラッグばく露対策のガイドライン2018年版では、患者さんやご家族にもばく露対策を実施して頂く内容を紹介しています。

日本でもばく露対策に関するガイドラインが発刊されていて、ご自宅で治療を受けられる患者さんやご家族にもばく露対策を実施して頂くように推奨しており、対策が進んできています。

抗がん薬は、人や動物で健康に影響を及ぼすことが多い薬です。患者さんのご家族などに健康被害が及ぼさないように、適切な取り扱いを行っていただき、皆さんの安全を守ることも重要な役割であると考えています。

参考文献

- ・NHO「HDの安全な取り扱い」の概念構築研究班(編):抗がん薬ばく露対策ファイル NHOネットワーク共同研究参加32施設からの提言、じほう、2018.
- ・Sugiura S. et al: Risks to health professionals from hazardous drugs in Japan: a pilot study of environmental and biological monitoring of occupational exposure to cyclophosphamide. J Oncol Pharm Pract OnlineFirst, published on February 23, 2010 p.4
- ・Michiko Yuki, Satoko Sekine, Kanae Takase, Takashi Ishida and Paul JM Sessink : Exposure of family members to antineoplastic drugs via excreta of treated cancer patients. J Oncol Pharm Pract, 2013 Sep;19(3):208-17.
- ・NIOSH ALERT; Preventing Occupational Exposures to Antineoplastic and Other Hazardous Drugs in Health Care Settings (2004)
- ・JSCN/JSMO/JASPO 編;がん薬物療法における職業性ばく露対策ガイドライン2019年版、金原出版、2019.
- ・Polovich M, et al : Safe Handling of Hazardous Drugs (Third Edition). Oncology Nursing Society, 2018.
- ・USP800: Hazardous Drugs—Handling in Healthcare Settings
- “Hierarchy of Controls,” by National Institute for Occupational Safety and Health, 2016. Retrieved from <http://www.cdc.gov/niosh/topics/hierarchy>.

この冊子は治療を受ける皆さまに少しでもお役に立てますよう作成しています。
この冊子にある情報は2022年4月1日現在の国内外のガイドライン等に基づくものです。
本著作物に関する権利はすべて日本ベクトン・ディッキンソン株式会社が保有します。
本著作物の一部またはすべてを無断で複写・複製・転載・改変または流布することを禁じます。

